

私の一文字

政治・行政委員会
委員長
鈴木 純

帝人
取締役会長



「天」をあがめ、自身を律する

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月は、鈴木純政治・行政委員会委員長にご登場いただきました。

岡西 今回選ばれた「天」という字は、人を正面から表した「大」の上に、「一」が乗っています。「一」をどっしり据え、その下で伸び伸びと人が動くようなイメージで書いてみました。どのような思いから、この字を選ばれたのでしょうか。

鈴木 まさに、私は、自分たちの上にもまだまだ知らない世界がある、そういう気持ちをいつも持っています。私はもともと生き物の研究者だったのですが、生き物は私たちには計り知れない不思議さを持っています。一方で当時は、バイオテクノロジーが伸びていました。この領域では一瞬、何でも遺伝子操作で生み出してしまうような感覚に陥ります。私もこの世になかった大腸菌を作ったことがあります。でも、やればやるほど、人の力では及ばないことがたくさんあることに気付くわけです。実際には生き物の営みの1割も、人類は把握できていない。例えば化学産業では、高温高压状態の中で合成素材を作ります。しかし生き物は、常温常圧の中で貝殻のような高機能なものを平然と生み出しています。複合材料のヒントは生物の中にもいくらでもあります。同時に人智を超えた領域もある。生き物の営みを、ちゃんと理解することができれば、私たちは、もっと賢くなれると思っています。

岡西 生態系や人間の進化には私も興味があります。突き

詰めると人間も自然の一部なので、人間が生み出したものも自然物と言えるのではないかと考えたこともありました。

鈴木 答えが難しい、深い問いですね。原子力であっても、自然界にもとがあるわけです。しかし、人が使うときには、本当に賢くならないといけない。自然の容量を超えてしまったときに、公害のようなものが生まれます。最近はサーキュラーエコノミーに目が向いていますが、良い傾向だと思っています。本来は全ての社会活動が、エネルギー循環の中で発展していくことが望ましいはずです。

岡西 一方で、自然には必然的な流れがあるとも感じます。

鈴木 「天命」や「天運」という使い方も好きですね。精一杯頑張ると、自分が思っていたこととは違う場合も多いですが、どこかで道が開ける。でも、そのために何をしてもよいわけではなく、常にお天道様が見ているので、自分自身を律して正しいことをしていかなければならない。自分よりも高いところにあるパワーに触れたいという気持ちと、そこをあがめて自身を律するという気持ちの両面を「天」という漢字から思うところです。

岡西 今日は「天」の字に含まれる意味を、すごくかみ砕いて考えられた気がします。最後に、委員長をされている政治・行政委員会の展望について、ぜひお聞かせください。

鈴木 取りまとめた提言は、まずは政治家や行政、メディアやシンクタンクの方々との意見交換をするところから始めています。一過性ではなく継続することが大事で、ムーブメントにつなげていきたいですね。経済同友会の中での

私の役割にも「天命」を感じているところです。私がすべきことを通じて、より社会に向けた貢献をしていきたいと思っています。

(肩書は2月20日取材当時)



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。